

おたふくかぜはワクチンで予防！

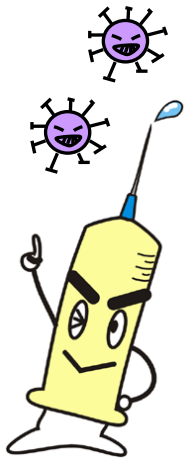


どんな病気？

流行性耳下腺炎ともいい、おたふくかぜウイルスが原因です。耳の下やあごの下の腫れ(はれ)と痛みが特徴です。通常、1~2週間で治ってきますが、色々な合併症を起こします。年齢が上がると重症になります。

最も多い合併症は髄膜(ずいまく)炎です。また、まれですが、重い難聴が一生残ることもあります。そのほとんどが片耳の難聴なので、小さい子供の患者では、多くは本人も周りも気付かないまま過ごしてしまいます。

思春期以降では、睾丸(こうがん)炎や卵巣炎を起こす例もあります。



感染のしかたは？

咳などのしぶきによる飛沫(ひまつ)感染と、唾液(だえき)で汚れた物への接触等による接触感染で、感染力はかなり強いです。

ウイルスに感染しても症状が出ないケースが3割程度ありますが、この場合もウイルスを排泄して感染源になります。潜伏(せんぷく)期間は2~3週間です。

学校や保育園は？

耳の下などの腫れが現れてから5日間が過ぎるまでは、他の人にうつす可能性が高いです。この時期が過ぎて、全身状態が良くなるまで、お休みしなければなりません。

ワクチンを受けておくと？

おたふくかぜに、かかりにくくする効果は高いです。もしかかっても、症状が出ている期間が短くなり、合併症が起こる割合も低くなります。

ワクチンを受けるには？

1歳から受けられます。腕に1回接種します。しっかりと免疫をつけるために、1回目を受けてから数年後に2回目を受ける方法がすすめられます。かかりつけ医に相談しましょう。

任意接種なので、費用は自己負担です。

いっしょに遊んだ子供が、かかっていたら？

患者と接触した際に緊急にワクチンを接種しても、予防にはあまり効果は無いとされています。保育園など集団生活に入る前に接種しておきましょう。

